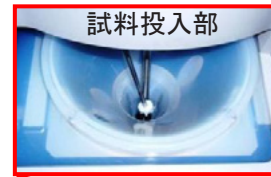
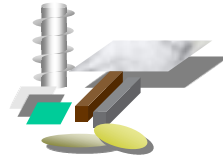


レーザー回折／散乱式粒子径分布測定

1. 特長

近年の新素材・新材料開発において、粒子径の制御が必要不可欠となっている。ナノオーダーの超微小領域から、個々を目視できる「粒」に至るまで、全ての粒子径分布を測定できます。



- ・ 幅広い粒子径範囲
- ・ 粉体、溶液(水系・有機溶媒系)に対応
- ・ 凝集の強い粒子を超音波プローブによって素早く分散
- ・ 国家標準とトレーサビリティが取れている。



粒子径分布測定装置外観

2. 装置仕様

①測定原理	Mie散乱理論
②測定粒子径範囲	10nm～3mm (フローセル測定: 30nm～3mm)
③測定方式	フローセル測定、バッチ式セル測定
④使用可能分散剤	水系及び 有機溶媒系(アルコール類・トルエン・アセトン・ヘキサン・メチルイソブチルケトン等)
⑤光学系/光源	半導体レーザー(650nm)、LED(405nm)
⑥検出器	リング状シリコンフォトダイオード、側方・後方シリコンフォトダイオード計87チャンネル
⑦試料循環系	分散: 超音波プローブ(7段階可変式) 循環: 遠心ポンプ15段階可変 最大約10L/min(水の場合)(攪拌機能あり)
⑧フローセル	Tempaxガラス

3. 測定事例

必要試料量目安: 粉体5g、分散液200mL

セラミックス・顔料・電池材料・触媒・化粧品
製薬・食品など幅広い分野で
粒子径分布測定が行われています。

